

第10回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム

大学に求められる役割と大学間連携における未来

2013年9月14日(土)・15日(日)

会場:同志社大学 今出川校地(寒梅館・良心館)



デザイン:京都嵯峨芸術大学 芸術学部 4年生 細木麻里奈

主催:全国大学コンソーシアム協議会

共催:公益財団法人大学コンソーシアム京都、同志社大学

後援:文部科学省、総務省、経済産業省

一般社団法人国立大学協会、公立大学協会

社団法人日本私立大学連盟、日本私立大学協会

全国公立短期大学協会、日本私立短期大学協会

全国知事会、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社

日本経済新聞社、一般社団法人共同通信社

京都府、京都市、京都新聞社

プログラム

第1日目:2013年9月14日(土)

時間	内容	場所
11:00~13:00	■受付	寒梅館
11:00~17:00	■ポスターセッション	寒梅館(会議室)
13:00~13:15	■挨拶 ・協議会代表者挨拶 赤松 徹眞 (全国大学コンソーシアム協議会 代表幹事、龍谷大学 学長) ・開催校代表者挨拶 村田 晃嗣 (同志社大学 学長) ・来賓挨拶 門川 大作氏 (京都市長)	寒梅館(ハーディーホール)
13:15~14:15	■基調講演 【講演者】 安西 祐一郎氏 (日本学術振興会 理事長) 【テーマ】 日本の大学ー現状と課題	寒梅館(ハーディーホール)
14:15~15:00	■ポスターセッション(コアタイム)	寒梅館(会議室)
15:00~17:00	■シンポジウム 【シンポジスト】 市川 太一氏(広島修道大学 学長) 藤岡 一郎氏(京都産業大学 学長) 濱名 篤氏(関西国際大学 学長) 里見 朋香氏(文部科学省高等教育局大学振興課長) 【コーディネーター】 山田 礼子氏(同志社大学 学習支援・教育開発センター所長)	寒梅館(ハーディーホール)
17:00~17:15	■全国大学コンソーシアム協議会総会	寒梅館(ハーディーホール)
17:15~18:15	■会場移動および情報交換会受付	
18:15~20:00	■情報交換会	京都ホテルオークラ(暁雲の間)

第2日目:2013年9月15日(日)

時間	内容	場所
9:30~10:00	■受付	
10:00~12:00	■第1分科会 大学図書館連携の取組と課題(キャンパス・コンソーシアム函館) ■第2分科会 就職問題/「企業の本音」、「大学の本音」からあるべきマッチングの形を探る (学術・文化・産業ネットワーク多摩) ■第3分科会 若年層に広がるコンソーシアム活動(大学コンソーシアム大阪) ■第4分科会 コンソの可能性を考えるワークショップ(大学コンソーシアム熊本)	良心館
13:00~15:00	■第5分科会 コンソーシアムにおける人材育成の取組-大学間連携共同教育推進事業と関連させて- (大学コンソーシアム石川) ■第6分科会 コンソーシアムによるFD・SDの推進(愛知学長懇話会) ■第7分科会 地域の核となる大学づくり(COC Center of Community)(大学コンソーシアム京都) ■第8分科会 コンソーシアムは行政との連携をどのようにするのか(教育ネットワーク中国)	

メインテーマ「大学に求められる役割と大学間連携における未来」

全国各地で大学連携・地域社会や産業界との連携に関する活動が活発化していた2004年、全国大学コンソーシアム協議会が創設されました。情報共有の場として第1回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムが「連携でこそ実現可能な新たな学びの探求」と題し、京都で開催されました。大学連携に期待と希望を抱きスタートしてから10年、全国大学コンソーシアム協議会加盟団体は35都道府県46団体を擁する組織となり、このたび記念すべき第10回のフォーラムを迎えました。

近年、大学どうし、あるいは地域社会・産業界等との多様な連携を支援する国の補助金事業が数多く展開され、平成24年には国の大学政策の基本方針として「大学改革実行プラン」が策定されました。このプランでは、重要な課題のひとつとして「グローバル化に対応した人材育成」が挙げられ、これは即戦力となる人材育成を大学に求める産業界の期待とも重なっています。また、地域活性化の核となる大学づくりが「COC(Center of Community)構想」として示され、地域と大学の連携や生涯学習機能の強化が求められています。

そこで、今回は、本フォーラム発祥の地である京都において、改めて地域社会や産業界から求められる大学の役割とともに、これからの連携のあり方やその未来に焦点をあて、「大学に求められる役割と大学間連携における未来」と題して、第10回大会を開催します。

基調講演「日本の大学—現状と課題」



安西 祐一郎 氏

日本学術振興会 理事長

1946年東京生まれ。1974年慶應義塾大学大学院博士課程修了。カーネギーメロン大学客員助教授、北海道大学文学部助教授、慶應義塾大学理工学部教授を経て、93年～2001年同理工学部長、01～09年

慶應義塾長。現在、独立行政法人日本学術振興会理事長、慶應義塾学事顧問。主な兼職として、文部科学省中央教育審議会大学分科会長、学びのイノベーション推進協議会座長、公益社団法人全国大学体育連合会長など。また、日本私立大学連盟会長、環太平洋大学協会会長、情報処理学会会長、日本認知科学学会会長等を歴任。

著書『心と脳』(岩波新書)、『『デジタル脳』が日本を救う』(講談社)、『教育が日本をひらく』(慶應義塾大学出版会)、『認識と学習』(岩波書店)、『問題解決の心理学』(中央新書)ほか多数。専攻は認知科学、情報科学。

東西冷戦の終結(1989年)、インターネットとデジタル携帯の普及(1995年)を経て、世界はグローバル化・多極化に向けて大きく舵を切りました。各国・地域の大学もまた世界の変化を受け止め、新しい時代に対応しつつあります。翻って日本の大学の現状はどうでしょうか。国公立を問わず、世界の変化に本当に対応できているのか。国内だけでの大学の序列に意味があるのか。変わるべきもの、変わらざるべきものは何か。新しい時代を見据えてどんな課題を克服していかなければならないのか。現状と課題を踏まえ、大学政策について現在進められている議論に触れながら、日本の大学のこれからの在り方について述べます。

シンポジウム

これまで取り組んできた大学連携を振り返り、現在の取り組み状況を紹介し、また、行政からの視点、地域社会・産業界などからの要請を踏まえ、大学間連携における未来について考えます。



～協議会・フォーラム10年を振り返って～

市川 太一 氏

広島修道大学 学長

1975年慶大大学院博士課程修了、博士(法学)。1996年～2002年、2010年から広島修道大学学長、一般社団法人教育ネットワーク中国代表理事。著書『30年後を展望する中規模大学』ほか多数。



～これからの大学連携～

濱名 篤 氏

関西国際大学 学長

上智大学大学院文学研究科社会学専攻博士課程修了。博士(社会学)。主な兼職として、文部科学省中央教育審議会臨時委員、同学校法人運営調査委員、国立教育政策研究所評議員、独立行政法人大学入試センター運営審議会委員など。専門は教育社会学、高等教育論。



～現在の取組: 京都産業大学の事例～

藤岡 一郎 氏

京都産業大学 学長

同志社大学大学院法学研究科修士課程修了。1980年京都産業大学法学部講師となり、1990年法学部教授。就職部長、総合能力開発室長、教務部長、副学長、法務研究科長などを経て2010年より現職。

No Image

～文部科学省の動向・大学連携に期待するもの～

里見 朋香 氏

文部科学省高等教育局大学振興課長

1990年文部省入省。岡山県教育委員会文化課長、東大企画調整役(兼)総長秘書室長、京大総長室副室長(総長室担当部長)を経て、2012年科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課長。本年7月から現職。



【コーディネーター】

山田 礼子 氏

同志社大学教育支援機構副機構長、学習支援・教育開発センター所長、社会学部教授

1991年カリフォルニア大学ロサンゼルス校教育学大学院博士課程修了(Ph.D.)。主な兼職として、中央教育審議会大学分科会大学教育部会専門委員など。著書『学士課程教育の質保証へむけて—学生調査と初年次教育からみえてきたもの(東信堂)』2012年(単著)ほか多数。

ポスターセッション【9月14日（土）11:00～17:00】

■場所:寒梅館(会議室) ■コアタイム:14:15～15:00

北は北海道から南は九州まで全国各地の地域で、コンソーシアムの活動が盛んになり、それぞれが特色を持って産・官・学・地域と連携しながら取り組みがなされています。

このポスターセッションでは、各コンソーシアムが発行、作成した資料の展示はもとより、各コンソーシアムが取り組んでいる単位互換、インターンシップ、生涯学習、地域学、高大連携推進、シンクタンク機能などの様々な活動状況を紹介し、実践的な経験や取り組みなどのノウハウを共有し、参加者間の情報の交換の場として、提供いたします。

また、今回も企業ブースを設け、企業のアイデアを皆様の取り組みに活用できないか様々な情報を交換する場も提供いたします。

是非、ご関心のあるブースにお立ち寄りいただき、積極的な情報交換の場としてご活用ください。

分科会【9月15日（日）10:00～12:00】

第1分科会(キャンパス・コンソーシアム函館)

大学図書館連携の取組と課題

大学等の高等教育機関には附属図書館が存在し、自治体にも必ずと言っていいほど公共図書館が設置されています。しかし、地域住民は大学等の附属図書館が一般に開放されていることを知りません。地域住民に学校を知ってもらう第一歩として気軽に附属図書館を利用してもらい、また、各大学等の図書館職員の交流を深め、合同研修会や合同広報など、出来ることから「Library Link(図書館連携)」を始めましょう。

第1分科会プログラム

10:00～	趣旨説明
10:05～	「図書館連携プロジェクト 「Library Link」について」 報告者:粟谷 禎子氏 (キャンパス・コンソーシアム函館、公立ほこだて未来大学 情報ライブラリー司書)
10:30～	「横浜市内大学図書館コンソーシアムの 過去・現在・未来」 報告者:長谷川 豊祐氏 (横浜市内大学間学術・教育交流協議会、鶴見大学 学術情報事務長)
10:55～	「地域共同リポジトリ事業の可能性と課題」 報告者:北山 信一氏 (大学地域コンソーシアム鹿児島、 鹿児島大学 学術情報部情報管理課学術コンテンツ係長)
11:20～	質疑応答
11:40～	意見交換
コーディネーター	田中 邦明氏 (キャンパス・コンソーシアム函館 運営会議座長、 北海道教育大学函館校 教育学部 教授)

第2分科会(学術・文化・産業ネットワーク多摩)

就職問題／「企業の本音」、「大学の本音」から あるべきマッチングの形を探る

平成24年度の文科省「学校基本調査(大学)」で、大学学部卒業生は56万人、就職者は35万7千人、正社員は33万5千人。問題は卒業後、非正規の就職や就職・進学などしていない卒業生が約13万人、全体の23%も存在し、就職浪人すると正規雇用には不利になると感じる「卒業延期学生」が約5万人、上記数値とは別にいます。これは社会問題、経済問題であり、大学の経営の有り様を問われる事態です。この状況に、企業人事28,000人以上が参加するHRプロと企業・大学の就職問題に詳しい経験者から「企業の本音」「大学の就職支援のありかた」を報告、参加者で協議し解決策を探ります。

第2分科会プログラム

10:00～	「企業人事28,000人から見る 企業側採用本音と平成25年度就職戦線」 報告者:寺澤 康介氏 (HRプロ株式会社 代表取締役社長)
10:40～	「企業採用、大学キャリアセンターから見た 成功する学生の就職支援」 報告者:中村 裕氏 (ネットワーク多摩 チーフディレクター)
11:20～	まとめ・意見交換
11:40～	質疑応答
コーディネーター	吉岡 明彦氏 (ネットワーク多摩 チーフディレクター)

第3分科会(大学コンソーシアム大阪)

若年層に広がるコンソーシアム活動

市民向け生涯学習や高校生向け模擬授業などは、広く行われていますが、それより若年の幼児～小学生や中学生に対して、コンソーシアムが関わり大学が連携して行っている事例は少ないと思われます。こういったコンソーシアム活動は、生涯学習などとは違った形での地域連携・貢献、教育的効果などをもたらしていると考えられます。コンソーシアム岡山での幼児～小学生を主な対象とした「日ようび子ども大学」の活動と、コンソーシアム大阪での中学生を対象とした「中学生サマーセミナー」の活動及びその教育効果を紹介して、若年層へのコンソーシアム活動の広がりについて考えます。

第3分科会プログラム	
10:00～	趣旨説明等
10:05～	「日ようび子ども大学について」 報告者: 澁谷 俊彦氏 (大学コンソーシアム岡山 地域貢献委員会委員長 山陽学園大学 総合人間学部生活心理学科教授)
10:35～	「中学生サマーセミナーの概要」 報告者: 三宅 努氏 (大学コンソーシアム大阪 事務局長)
11:05～	「中学生サマーセミナーの教育的効果」 報告者: 齋藤 安以子氏 (摂南大学 外国語学部教授)
11:35～	パネルディスカッション
コーディネーター	西田 知博氏 (大阪学院大学 情報学部准教授)

第4分科会(大学コンソーシアム熊本)

コンソの可能性を考えるワークショップ

大学コンソーシアムは、地域の大学、行政、企業等が協力し、高等教育の向上や地域の振興、国際化など多面的な公益機能を実現する協働の場です。この分科会では、「大学が連携することでこんな素敵なことができるのでは」といった思いやアイデア、「うちではこれが上手いきました」という経験談、「実はこれが困ってるんです」などといった悩みなどを話し合い、人脈づくりと学びあう機会としてのワークショップ(ワールドカフェ方式)を開催します。

第4分科会プログラム	
10:00～	オリエンテーション
	ワークショップ
	グループ発表
ファシリテーター	石原 義光氏 (大学コンソーシアム熊本 地域創造部会長 熊本保健科学大学 事務局長)
	難波 美都里氏 (南大阪地域大学コンソーシアム 統括コーディネーター)
	古矢 鉄矢氏 (相模原・町田大学地域コンソーシアム 理事、北里大学学長補佐)
コーディネーター	上野 眞也氏 (大学コンソーシアム熊本 理事、企画・運営委員長)

分科会【9月15日(日) 13:00～15:00】

第5分科会(大学コンソーシアム石川)

コンソーシアムにおける人材育成の取組 -大学間連携共同教育推進事業と関連させて-

文部科学省の平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」では「社会の要請に応える共同の教育・質保証システムの構築を行う取組」として、地域連携25件が選定されました。うち4件はコンソーシアムを母体とする取組であり、地域のステークホルダーの協力を得ながら加盟高等教育機関の人材育成を相互に支援する仕組みを創り実践を続けてきたことが評価されました。4件につき、各代表校から平成28年度までの取組についてご報告いただき、課題や展望について意見交換を行います。

第5分科会プログラム	
13:00～	趣旨説明
13:05～	「学都いしかわ・課題解決型 グローバル人材育成システムの構築について」 報告者: 古畑 徹氏 (大学コンソーシアム石川 教務学生専門部会長、金沢大学 人間社会研究域教授)
13:20～	「美しい山形を活用した 『社会人力育成山形講座』の展開について」 報告者: 横井 博氏 (大学コンソーシアムやまがた 企画運営部会長、山形大学 渉外部教授)
13:35～	「ふくしまの未来を拓く『強い人材』づくり 共同教育プログラムについて」 報告者: 小沢 喜仁氏 (アカデミア・コンソーシアムふくしま 事業推進会議議長、 福島大学 副学長(地域連携担当))
13:50～	「留学生との共修・協働による長崎発 グローバル人材基盤形成事業について」 報告者: 橋本 健夫氏 (大学コンソーシアム長崎 事務局長、長崎大学 地域教育連携・支援センター長)
14:05～	質疑応答・まとめ
コーディネーター	青野 透氏 (大学コンソーシアム石川 教職員研修専門部会長、 金沢大学 大学教育開発・支援センター教授)

第6分科会(愛知学長懇話会)

コンソーシアムによるFD・SDの推進

高等教育全体が激動の時代を迎えた現代において、教職員の育成や能力開発は各大学共通の課題であると考えられます。大学間の連携を通じたFD・SDが展開されるようになり、それぞれの知的資源を効果的に結集したプログラムが拡大しつつあります。

本分科会では、いくつかの具体的な実施事例についてご報告いただき、大学コンソーシアムが果たすべきFD・SDのあり方について、様々な角度から意見・情報交換を行います。

第6分科会プログラム

13:00～	「いわて高等教育コンソーシアムのFD・SDの取り組み」 報告者:江本 理恵氏 (岩手大学 大学教育総合センター准教授)
13:20～	「大学連携で実施する相互研修型FD活動の現状と課題」 報告者:山川 修氏 (福井県立大学 学術教養センター・教授)
13:40～	「大学コンソーシアム京都のFD・SD活動の現状と課題」 報告者:川面 きよ氏 (大学コンソーシアム京都 専門研究員)
14:00～	討論「大学コンソーシアムが果たすべきFD・SDのあり方とその課題」
コーディネーター	夏目 達也氏 (名古屋大学 高等教育研究センター教授)

第7分科会(大学コンソーシアム京都)

地域の核となる大学づくり

(COC(Center of Community))

現代社会は、大学と地域社会との関係性が全体社会の発展性を規定する時代と考えられます。文部科学省の「大学改革実行プラン」(2012年6月)でも「地域再生の核となる大学づくり(COC(Center of Community))」が示されているのは、このような認識からです。

本分科会では、地域と大学との組織的連携を先進的に展開してきている京都での事例に基づいて、個別大学の地域連携、大学の連携組織化による地域連携のあり方を検証し、大学コンソーシアムとしての地域連携の可能性を明らかにしたいと思えます。

第7分科会プログラム

13:00～	趣旨説明
13:05～	「大学間連携、域学連携による地域資格制度の開発」 報告者:白石 克孝氏 (龍谷大学 政策学部教授)
13:30～	「ソーシャル・イノベーションのための地域と大学の協働～その成果と課題」 報告者:新川 達郎氏 (同志社大学 総合政策科学研究科教授)
13:55～	「地域共創サイトへの院生派遣プログラムによる大学の多核化」 報告者:吉田 友彦氏 (立命館大学 政策科学部教授)
14:20～	「産業振興と大学 —京都産学公連携機構を例に—」 報告者:白須 正氏 (京都市 産業観光局長)
14:45～	質疑応答・まとめ
コーディネーター	河村 能夫氏 (龍谷大学 地域連携フェロー)

第8分科会(教育ネットワーク中国)

コンソーシアムは行政との連携をどのようにするのか

大学コンソーシアムは事業の推進にあたって、行政、企業、経済団体、NPOなどとの連携は不可欠です。本分科会では、これらの諸組織の中でもとくに行政に焦点をあて、コンソーシアムと行政との連携、行政が提供するサテライトなどについて報告してもらい、コンソーシアムと行政の円滑な関係を構築する方策について考えることを目的としています。

第8分科会プログラム

13:00～	趣旨説明
13:05～	「コンソーシアムと行政との連携について」 報告者:石丸 成人氏 (石川県 企画振興部次長)
13:30～	「コンソーシアムのサテライトの運営」 報告者:三宅 努氏 (大学コンソーシアム大阪 事務局長)
13:55～	質疑応答・まとめ
コーディネーター	川野 祐二氏 (エリザベト音楽大学学長)

申込方法

STEP1: 申込み(先着順)

- ① 申込みURLから、「メールアドレス確認フォーム」にアクセスし、メールアドレスを登録する。
- ② 登録したメールアドレスに「参加申込フォーム」のURLアドレスが届く。
- ③ メールに記載されているURLにアクセスし、申込み手続きをする。
- ④ 申込完了後、「申込み完了メール」が届く。
※ 申込み完了メールが届かない場合は、協議会事務局までお問い合わせください。

※ 申込み完了後の変更は、一切受け付けられません。
※ 基調講演者、シンポジスト、コーディネーター、分科会報告者の方は申込みは不要です。

STEP2: 参加費の支払

- ① 申込み手続き完了後、郵送で払込票が届く。
- ② 最寄りのコンビニエンスストアで参加費を支払う。
※ 取り扱い可能店は払込票の裏面に記載。
なお、銀行・ゆうちょ銀行などの金融機関ではお支払いができませんのでご注意ください。
【参加費支払締切: 2013年8月7日(水)24:00まで】

※ 申込み手続き・参加費支払いが完了していない方は参加できませんのでご注意ください。

お支払いいただく参加費につきましては、印刷費、WEBシステム運営費、通信費など、諸準備に使用いたしますので、いかなる理由があっても返金等には応じられません。ご了承下さい。報告集の代金をお支払いいただいている場合は、欠席された方にも後日送付いたします。

STEP3: 参加証の発行

参加費の支払いが完了したら、参加証がメールで届く。

※ 8月23日(金)になっても参加証(メール)が届かない場合は、協議会事務局までお問い合わせ下さい。

STEP4: 当日

参加証(メール)をプリントアウトのうえ持参し、受付にて提示する。

※ 代理の方が参加される場合は当日の受付にてお申し出下さい。

申込期間

2013年6月1日(土)～7月31日(水)

【参加費支払締切: 2013年8月7日(水)24:00まで】

※当日申込みは、一切受け付けできませんので、ご注意ください。

参加費

申し込み区分	参加費	情報交換会費	報告書	合計
参加のみ	3,000円	-	-	3,000円
参加+情報交換会	3,000円	3,000円	-	6,000円
参加+報告集	3,000円	-	1,000円	4,000円
参加+情報交換会+報告集	3,000円	3,000円	1,000円	7,000円

申込みURL(アドレス)

<https://event.consortium.or.jp/zenkoku10/>

もしくは

大学コンソーシアム京都



全国大学コンソーシアム協議会 加盟組織

ご所属の機関が、全国大学コンソーシアム協議会の加盟組織かどうかについては、以下のページをご参照ください。

全国大学コンソーシアム協議会 加盟組織に属している場合、申込みの際、所属組織をご入力ください。

全国大学コンソーシアム協議会 加盟一覧



問い合わせ先

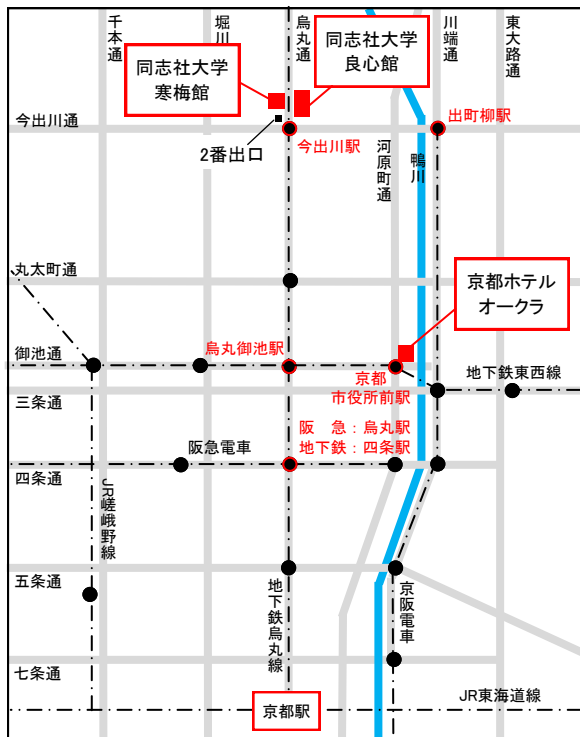
全国大学コンソーシアム協議会 事務局
(大学コンソーシアム京都内)

【受付時間】火曜～土曜 9:00～17:00

電話 : 075-353-9100

Email : alljapan-consortium@consortium.or.jp

会場へのアクセス



JR・近鉄 京都駅	阪急 烏丸駅	京阪 出町柳駅
地下鉄烏丸線 京都駅	地下鉄烏丸線 四条駅	
地下鉄 9分	地下鉄 6分	徒歩 15分
地下鉄烏丸線 今出川駅(北改札口)		
同志社大学 寒梅館(2番出口)・良心館(1番出口が地下1階と直結)		
地下鉄烏丸線 今出川駅		
地下鉄 4分		
地下鉄烏丸線/東西線 烏丸御池駅		
地下鉄 2分		
地下鉄東西線 京都市役所前駅		
京都ホテルオークラ(改札前が地下2階と直結)		
タクシー 10分		

全国大学コンソーシアム協議会【設立趣旨】

近年、全国各地で大学連携、地域社会、産業界との連携による大学連携、大学コンソーシアムの取り組みが進められています。大学を超えた連携型教育・研究は、今やひとつの形態として大学教育の一角を担うようになりました。また、その地に根ざす大学はもちろんのこと、地域の歴史、立地、特性を背景として設立された地域組織としての大学コンソーシアムは、いふならば高等教育機関と地域社会とが深く結びつき、大学の発展と地域の活性化を実現する取り組みでもあります。

現在、高等教育は世界的な水準で質の保証が問われ、教育・研究は社会の評価が問われる時代でもあります。言い換えれば、社会の多様な教育ニーズに応え、特色ある教育・研究を創造することが求められています。

このような時代にあって、世界的にも高等教育を構成する重要なシステムである大学コンソーシアムは、連携でこそ実現可能な新しい学びと、知の社会還元を実現する可能性を有しています。

この様な流れの中で、発展段階にあるわが国の連携型の教育・研究の発展を目指し、各地で培ってきた「地域力」を「組織力」に換えることにより、相互に内容を共有できる新たな研究交流の場を提供していきたいという考えのもと、全国大学コンソーシアム協議会」を設置しました。

全国大学コンソーシアム協議会【概要】

全国大学コンソーシアム協議会は、国内各地域の大学コンソーシアム(大学連合体・大学連携組織)からなる協議会組織で、各大学コンソーシアムの情報交流・研究交流を図り、わが国の高等教育の発展に資することを目的として、2004年11月28日に28大学コンソーシアムからなる組織として発足しました。

事務局 【受付時間】 火曜～土曜 9:00～17:00

〒600-8216

京都市下京区西洞院通塩小路下ル

キャンパスプラザ京都 大学コンソーシアム京都内

全国大学コンソーシアム協議会 事務局

電話 : 075-353-9100

FAX : 075-353-9101

Email : alljapan-consortium@consortium.or.jp

